

## REDD+推進のための外部資金を活用した協力可能性 にかかる情報収集・確認調査 ミャンマー・マダガスカル・コスタリカの報告について

### 【農業と環境保全～ミャンマー～】

民主化政権に移行し、アジアの残された投資フロンティアとしてアツい視線が注がれているミャンマー。一方で、経済成長と共に森林への伐採圧力の増加も懸念されるところです。この問題について、地域産業の育成と森林減少圧力の軽減を両立させる策について、“地元林産物の活用”や“企業の生業との連携”という切り口から REDD+のポテンシャルを探ります。

### 【鉱業と環境保全～マダガスカル～】

アフリカ大陸の南東沖に位置するマダガスカル島は、野生生物は独自の進化を遂げ、生き物の80%以上が固有種だといひ、観光資源としての魅力を多く有する国です。また、マダガスカルの自然環境は、生物多様性保全だけでなく、カカオやバナナといった林産の副産物供給等、地域産業を支える役割も担っています。そのような島内で、重要産業とし鉱山開発が行われていますが、環境に負のインパクトを与える産業活動を、どのようにして環境保護と調和させるか、“鉱山会社との連携可能性”という切り口から REDD+のポテンシャルを探ります。

### 【畜産業と環境保全～コスタリカ～】

中米の小国コスタリカは、1997年から「環境サービスに対する支払」制度を導入、保護区をつなぐ生物コリドーを提案するなど、先駆的な生物多様性保全に取り組んできており、森林被覆率が増加に転じている中進国です。しかしながら、国土の24%を占める牧草地では、残存林が減少しているだけでなく牛が出すメタンが大きく温暖化に影響しているといわれています。牧畜を主体とした温暖化対策としての REDD+を提案します。